



会報 2025年11月号

日本ニュージーランド協会（関西） 創立1970年11月11日

New Zealand Society of Japan, Kansai

Coming out from Tago's nestled cove,
I gaze white, pure white the snow has fallen on Fuji's lofty peak

(A.Yamanobe)

大阪・関西万博は大きな事故もなく約2,557万9千人の一般来場者を迎えたしました。万博には様々な意見がありましたが、世界の様子や生命科学につき楽しく学ぶこともできたようです。メインテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」はどれだけ浸透したかは不明ですが、運営費は赤字にならないそうです。次回はサウジアラビアのリヤドで2030年（当会創立60周年）に「The Era of Change : Together for Foresighted Tomorrow」をテーマに開催されます。



（ザザンアルプスを望むルーピン群生地）



（ロトルア博物館）

（写真提供 松沼清司氏）

第298回例会（国立民族学博物館見学）11月15日（土）

第299回例会（クリスマスイベント）12月6日（土）

【事務局】日本ニュージーランド協会（関西）

〒558-0004 大阪市住吉区長居東 2-17-28,407

電話・Fax: 06-6607-2112

http://nzsocietykansai.com E-mail: nzsjk@yahoo.co.jp

■ 第298回 秋の散策例会

とき：2025年11月15日（土） 10時30分～

ところ：国立民族学博物館等

集合：10時30分 博物館受付

特別展「舟と人類～アジア・オセアニアの海と暮らし」

マシウス民博名誉教授（当会客員会員）解説付き

昼食：11時30分～ 民博内レストラン 各自注文 2,000円程度

オプション：日本庭園・70年万博記念館・太陽の塔内等見学

参加費：各自払い 民博 1,200円 日本庭園 文化園260円

太陽の塔720円 万博記念館500円

アクセス：千里中央からモノレール、万博記念公園下車約15分

申し込み：電話06-6607-2112

■ 第299回 クリスマス例会

とき：12月6日（土） 12時～14時30分

ところ：大阪科学技術センタービル 7階レストラン

集合：11時45分 レストラン前

内容：食事（NZ産牧草牛などの特別メニュー） NZ産ワイン等で乾杯

ミニコンサート 神戸マリンバソサエティの演奏

プレゼント交換（お家にある品で十分です。1,000円以内、食べ物もOK）

NZクイズ ビンゴゲーム 近況報告 バザー（ご協力をお願いします）

参加費：8,500円

アクセス：メトロ四ツ橋線肥後橋駅7番出口、南へ約4分 鞠公園東端

御堂筋線本町駅2番出口、西へ約8分

オプション：大阪科学技術センタービル1・2階には「大阪科学技術館」があり、

最新の産業技術（環境・エネルギー・情報等）の展示が無料で見学できます。

（10時～16時）

*鞠公園は市内有数の美しいオアシスです。

申し込み：第298回と同じ。締切：11月27日（木）

■ NZ 学会研究大会

この度、12月に京都で開催される研究大会に太谷会長からご招待をいただきました。初めてのNZ検定試験表彰式（当会の松沼副会長が最優秀で合格）・「政権交代とマオリ社会、日本の解散権制限法案とNZの首相の解散権、NZから見た万博・万博から見たNZ、NZの中等学校における平和教育、クリエイティブチャーチにおける自治の実践」をテーマに5名の大学人の講演があります。NZを理解するには大変有意義な大会です。参加費は不要です。ご希望の方は協会でまとめて申し込みますのでご連絡ください。詳細プログラムをお送りします。会場に制限（27名）があるのでお断りすることもありますのでご了承ください。

とき：12月13日（土） 13時～17時

ところ：京都市国際交流会館（左京区粟田口）

■「甲子園歴史館見学例会」に参加して

大学を卒業するまで東京で生まれ育った私なので、阪神タイガースというチームへの興味は30歳半ばまで全く無かった。今でも虎キチという程でもなく、まだ一度も試合を見に甲子園球場に足を運んだことが無い。そんな訳で、今回の例会には興味が無かったが、参加申し込みが少ないらしいので直前になって枯れ木も山の賑わいという気で参加することにした。

猛暑にメグズ集まつたのは6名。係の人からツアーチケット（2,000円）を渡され「スタジアムの集合ゲートに行ってください」との指示に従い球場の16番ゲートに行くと、ゲート内には既に30人ほどのツアー参加者が集まっていた。ガイドの女性からスタジアム内に於ける禁止事項等の簡単な説明を受け、いざ!スタジアムツアーグスタート。試合が無い日なので、普段は入ることの出来ない禁断の扉からガイドさんの後について球場の裏側へと侵入して行った。そこは3塁側スタンドの下に当たるスペースで、タイガースの対戦相手が使用するエリアということだ。

まず案内されたのは、リリーフ投手が出番前に投げ込んだりしているブルペンだった。用意されたバットとヘルメットを使って、子供たちはバッターボックスに立って写真を撮って貰ったりしていた。土の斜面のピッチャーマウンドには入れないが、その手前的人工芝に立ってバッターボックスを見ると、その距離からでも「ホームベースのあの狭い幅にストライクを投げ込むなんて神業」と思えるのだった。

次に案内されたのは、監督控室など幾つかのドアを横目に見ながら通路を進んだ先のロッカールームだった。そこはテレビで見たことのあるロッカールームと違い、簡易な椅子一つを金網で三方を囲った檻のような小スペースが柱の周囲と壁側にずらり並んだ細長い部屋だ。意外に思っていると、ツアーや入れない監督の部屋と一軍選手用のロッカールームをパネル写真で見せてくれた。さすが

監督の部屋には高級そうなソファが置かれ、一軍選手のロッカールームは椅子も棚もテレビで見たことのある例のものだった。

その部屋を出て意外と狭い通路を進んで行くと目の前が開け、周囲をアルプス山脈のようにそびえ立つ見上げるばかりのスタンドに囲まれた、色鮮やかな芝生の緑が目に飛び込んで来た。阪神園芸の人達が黙々とグランド整備に余念無く働いている。そこは3塁側ベンチの横で、数段下がったベンチの中に入ると目線の高さは地面に近づき、椅子に座ると更に地面と変わらないような高さになった。1塁線のラインは全く見えない。1塁側に飛んだボールがフェアかファールかは全く分からぬだろう。盛り上がったピッチャーマウンドの先は尚更だ。ベンチの中の選手達が試合中になぜ立って応援しているのか、納得である。

スタジアムツアーエンド後、球場の南側に建つ歴史館入口のカフェで軽くランチを済ませてから、阪神タイガース90年のあゆみが一堂に展示された資料館に入った。阪神タイガース創設時代から現在に至るまで、全選手の年表や優勝ペナント、トロフィー、選手が実際に使用したバットやグローブ、各種展示品や写真、映像など、タイガースファンにとってはワクワクが止まらない宝庫に違いない。



(歴史館内部)

しかし文頭で述べたような私なので、宝も猫に小判。残念だが今はもう殆ど記憶に残っていない。その中でも初めて実物を目にして驚いたのは、土に埋め込まれたホームベースは

厚さ20cm程もあること。初めて握って実感したのは、日本とメジャーリーグの硬球の縫い目の違いで、指の引っ掛けに微妙な差があることだった。

その後、渡り廊下から直接球場の二階に入る高校野球ゾーンに向かった。春・夏高校野球のあゆみとメモリアルコレクション、名勝負や名シーン、各種展示品、写真や映像など、長きにわたる高校野球の歴史と伝統が楽しめた。日本高校野球連盟加盟校と同数の4,253個の白球が壁に埋め込まれたボールウォールは圧巻だった。ボールにはこれまで甲子園に出場した全ての高校名が印字されていた。バックスクリーンへの通路を通り最後に向かった先は、スコアボードと想像以上に大きいパノラマビジョンの真下のエリアで、そこは球場内が一望できる大迫力の世界が目の前に広がる場所だった。試合観戦では決して入ることの出来ない所だ。

余り乗り気でなく参加したにも拘わらず、思わず数々の体験と新たな発見が楽しめた例会だった。ところで、ニュージーランド（NZ）といえばラグビーとクリケットで、野球のイメージは全く無いだろう。実は私がNZで野球を感じたことが、20年近く前にロトルアで暮らした（2006年7月～07年9月）ときに一度だけ有った。国道沿いの緑地を横切ったとき、野球をやっていたであろう白線が緑地の中に引かれていたのを発見して「えっ、NZで野球?!」と驚いたものだ。

NZに於ける野球の歴史は浅く競技人口も少ない。2014年からは元千葉ロッテマリーンズの清水直之氏がNZ野球連盟のゼネラルマネージャー補佐兼代表統括コーチに就任し、2018年に創設されたNZ唯一のプロ野球チーム「オークランド・トゥアタラ」はオーストラリア野球リーグABLに加盟していたが、コロナの影響もあり2023年にはABLからの脱退とチームの清算を発表し消滅した。NZの野球がラグビーと肩を並べるようになるにはまだ長い年月が必要だろう。

<追記>

甲子園球場を本拠地とする阪神タイガースは、球団創設90年という節目の今年、藤川球児を新監督に迎えたペナントレースで圧倒的な強さを示してリーグ優勝を早々に決めた。そして、横浜DeNAベイスターズとのクライマックスシリーズ・ファイナルステージでも4勝負け無しの快進撃で、セリーグの頂点に立った。一方、パリーグのファイナルステージを4勝3負の激闘の末なんとか勝ち抜いてきた福岡ソフトバンクホークス。そして、10月25日から始まった日本一を掛けたセ・パ最終決戦「日本シリーズ」の第一戦でも、タイガースはソフトバンクを下して前評判通り阪神タイガース有利と思いつか、その後4連敗。2025年の日本一に輝いたのは福岡ソフトバンクホークスだった。

(松沼清司)

■ 初めてのNZ旅行とラム肉例会

ニュージーランド協会（関西）の皆さま、初めまして。先日ラム肉調理会へ参加させて頂きました大倉と申します。

今年の8月に初めてニュージーランドの南島を夫婦で旅行し、豊かな自然と美しい街並みにすっかり魅了されました。少し長くはなっていますが、初めてのニュージーランド旅行とラム肉調理会の感想をシェアさせて頂きます。

ニュージーランドを旅行先へ選んだ経緯としては、夫に「関空からブリスベンの往復が安いからお盆休みに行ってみよう!」と誘われたことが発端です。ブリスベンだけだと時間を持て余しそうなので、当初はついでにオーストラリアの他の都市も観光することを考えました。しかし、オーストラリアのガイドブックを見てみたりネットで検索してみたりしても、なかなかピンと来る場所が見つからず…。冗談交じりで「いっそニュージーランドまで行く?」と話したりもしましたが「また別途電子渡航認証を申請しないといけないし、面倒くさ

ぎるやろ～」と一旦は却下。何かと面倒くさがりな私達（特に私）は、渡航日1か月前を切っても航空券以外は何も予約していないまま放置していました。「さすがにそろそろ宿とか取らないとな～」と重い腰を上げてYouTubeの旅行動画を漁ってみましたが、やっぱりピンと来ず、「気分転換にニュージーランドの動画でも…」と見てみたところ、「絶対こっちの方が好みやん！このタイミングを逃したら一生行かなそうな気がするし…、行っちゃおう！」となり、出国2週間前になってようやくブリスベンークライストチャーチ間の航空券を予約したのでした。

というわけで、私達はまず大阪からブリスベンへ行き、3日間ブリスベン観光した後（こちらはこちらでコアラやカンガルーに会ったり、Ekkaというお祭りに参加したり満喫できました）、3日目の夜にオーストラリアを出国し、真夜中にクライストチャーチへ到着しました。初めて乗ったニュージーランド航空は、機内食が美味しい驚きました。

翌日は少し遅めに起きてレンタカーを借り、ランチを楽しんだ後、キーウィに会いにWillowbank Wildlife Reserveという動物園へ向かいました。キーウィは夜行性のため、キーウィゾーンは真っ暗で撮影もNG。暗すぎて何も見えません。しばらくすると暗闇に目が慣れて周りが見えるようになりましたが、スペースが割と広いので、キーウィ探しは難航しました。しかし、これがキーウィを見れる一生に一度のチャンスかもしれない私たちは、必死に目を凝らし、耳を澄まし、閉園まで粘りに粘って最終的には3匹中2匹のキーウィを発見することができました。長時間粘つただけあって見つけた時はテンションが上がりまし

たし、初めて見るキーウィは丸くてとても愛らしかったです。園内はキーウィ以外にも様々な動物がいて、人は少ないし日本では考えられない近さでのんびり動物たちを見れるしで、大満足でした。その後は街の中心地へ戻って散策し、最先端の図書館Turangaに圧倒

され、クライストチャーチの民度の高さをこれでもかと思い知った初日でした。



(テカポ湖)

2日目は午前中クライストチャーチで買い物をし、Tekapo湖へ向かいました。道中は、沢山の羊に美しい緑の丘といった、サウンドオブミュージックを彷彿とさせる映画のような景色が続きました。Mt. Johnから湖を一望し、「善き羊飼いの教会」を訪れ、サーモンを食べ、星空を楽しみ、模範的な観光客として過ごせたと思います。Tekapoの満天の星空は、「わざわざ押し入れの奥から冬服を引っ張り出して遠路はるばる来た甲斐があった（涙）」と思わせてくれました。

3日目はPukaki湖へ行き、サーモンの養殖場で新鮮なサーモンを食べ、Oamaruまで向かい、その日の宿であるTeschemakers Resort (<https://www.teschemakers.com/history.html>)へ向かいました。この宿は、元々修道女のための寄宿学校として使われていたこともあったそうです。この日はたまたま宿泊客が私達を含め2組しかおらず（前日は満室、翌日も満室とのことでした）、親切な受付の方が敷地内をじっくり案内してくれました。敷地内にはチャペルや農場もあり、アルパカと羊の餌やりもできて、なぜかチョコレート工房までありました。宿の人から「この建物はDr Ochiという日本人が所有していた時期もあったんですよ。」ということを教えてもらったのですが、私達はDr. Ochiを存じ上げておらず、後でネット検索してみたところ、どうやら日研フードの創業者の方だったようです。有機農

や健康科学系の教育機関を作ることを目的に改修工事までやったそうですが、残念ながら越智さんは改修完了前に道半ばで逝去され、計画は立ち消えてしまったようです。思わぬところで日本の方とニュージーランドの不思議な接点を知ることができ、感慨深かったです。Oamaru では世界最小のブルーペンギンを見るっていました。海から巣に戻るペンギンたちは、前のめりでヨチヨチ歩いていて可愛かったです。

4日目は午前中に Oamaru の街を散策しました。Oamaru は 19 世紀ビクトリア朝風の建物が多く残っている街で、あまりじっくり見て回る時間はありませんでしたが、お洒落な古本屋やキャンドルショップ、パン屋さんなどがあり楽しかったです。翌日にはブリスベンに向けて出国しなければいけなかった為、午後にはクライストチャーチに戻り、スーパーなどでお土産を買いました。外国のスーパーって楽しいですよね。

この4日間は本当にあつという間で、なのに1日1日は時間がゆったり流れ充実した時間を過ごすことができました。最終日の朝は、「まだ帰りたくない」という思いと「帰りの機内食が楽しみ」という思いの相反する複雑な(?)感情で空港へ向かいました。帰りの機内食も、もなく美味しかったです!そして最後までニュージーランド気分に浸りたい私は、機内エンターテイメントで「I am the river, the river is me (I Am The River)」という映画を観たのですが、これがとっても興味深い内容でした。Whanganui River という川を題材としたドキュメンタリーだったのですが、この川は、なんと世界で初めて法人格を認められた川ということで、「そんな発想があるんだ!」と大変驚きました。この映画は日本語字幕が無くて全て完全に理解することはできなかったため、帰国後にこの映画を配信しているストリーミングサービス等が無いか探してみましたが、見つかりませんでした。現状、日本に住んでいる人間にとっては、

ニュージーランド航空を利用する時がこの映画を観れる唯一のチャンスのようです。こちらをお読みの方の中で、もし近々ニュージーランド航空を利用する機会がありましたら、是非ご覧になることをおすすめします。

そんな訳で、最後の最後まで新たな発見を与えてくれたニュージーランドにすっかり魅了されてしまいました。旅行前は「日本からだと飛行機代が高すぎるし、これが人生最初で最後のニュージーランド旅行なのかも」と思っていたのに、帰国した時には「絶対にまた行きたい!」という気持ちに変わっていました。とはいえ、またすぐに旅行へ行くには金銭的なハードルが高すぎるので、関西でニュージーランドを感じられるようなお店やレストランなどが無いかネットサーフィンをしていたところ、こちらの協会の HP を拝見し、この度ラム肉調理会へ参加させて頂いた次第でございます。



(ラム肉例会)

旅行中は、限られた時間でなるべく沢山のところへ行きたいという気持ちが強く、また、節約のためにも三食きちんと食べなかつたため、現地でラム肉を食べる機会はなく、今回のラム肉調理会で初めてニュージーランドのラム肉を頂きました。羊肉といえば独特な臭いのイメージがあったのですが、全く臭みがなく、柔らかくジューシーでとってもおいしかったです。また、「しっかり焼かないと危ないのかな」と思っていたのですが、参加されていた「お肉のプロ」の方が（お名前が覚えられませんでした。すみません。）「ラムはミディアムレアが一番やで!」と仰っていて、赤みが残った状

態で食べれることにも驚きました。確かにミディアムレアがとってもおいしかったです。初めての参加でしたが、皆さんオープンマインドで気さくにお喋りして下さって、色々と教えて頂き大変ありがとうございました。さすがはニュージーランド協会の皆さんだけあって、大らかでフレンドリーな「キーウィマインド(?)」をお持ちなのだと感じました。初参加でしたが暖かく迎えてくださった皆様へ、この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました!

(オオクラ・ヨシコ)

■ 甲子園出場

ここ何年か、心の安定を欠き体調を崩していました。当協会の会報は楽しく読ませていただいています。皆様の笑顔と楽しい会話を楽しみにしています。

会報7月号に甲子園球場歴史館見学会への案内が載っていました。是非、参加したいと思っていましたが仕事の都合で欠席しました。そう思ったのは、私が通った高校が昨年(令和6年)の春の高校野球選抜大会に初出場したからです。その前年の秋、高校の同窓会(同学年全クラス)の集まりがあり母校が秋の近畿大会でベスト4に入り、出場が確実だと聞いていました。1月に出場が決まり、当日の朝、スポーツ新聞を2紙購入しました。テレビで放送されるニュースも意識して観ました。私が通っていた高校(和歌山県立耐久高校)は、ある意味で話題になりました。学校設立は幕末の1852年(寛永5年)です。米国のペリーが開国を迫り、浦賀に来るのは翌年でした。そういう時代背景でつくられた学校でした。日本の未来を考え、幕末に耐久舎が開設されました。大正時代に県に移管されたそうです。

野球部ができたのが1905年で、創部120年目の出場でした。私が通った頃は、野球部は決して強くなく、県大会で1回戦か2回戦で姿を消していたと思います。最近の校区廢

止に拠って有望な生徒が集まつたようです。幕末の安政の南海地震の時に、津波から村民を守り、村の復興に力を尽くした濱口梧陵らが学校を開きました。(濱口は戦前の国語の教科書にある「稻村の火」で知られています。小泉八雲によって世界に広められました。)

選抜大会の試合当日(3月20日)、地元からバス60台で町民が応援に来ました。

私たち京阪神周辺に住む者は電車で集まりました。遠くは東京方面からも母校の代表を見たさに駆けつけました。試合は対戦する中央学院高校(千葉県)が2枚看板の投手と強力な打力でとても強く、中盤までは接戦でしたが結局は1対7で敗れました。当日は風が強く雨も降り後に晴れのような天気でしたが、久しぶりに会った懐かしい友達一緒に声援や拍手を送り校歌を歌い昔を想いだしました。私より先輩の70代、80代の方々も大変喜んでいました。



(表彰を受けた応援団)

私が通っていた時代は、1学年9クラス(普通科8・理数科1)でしたが、少子化の影響で今は5クラスのようです。私の同級生(友人)で野球部でショートを守っていた松下君は、数年前に病でなくなりました。誰かが「彼の世で松下君、喜んでいるで。」と言った時、胸が熱くなりました。私の高校時代は、県立簗島高校(隣町の高校)が強く、小中学時代の友人が甲子園に出場したり、1学年下の後輩が春夏優勝(主将が上野山・投手が石井)をしました。比べられませんが、「まさか、

生きているうちに母校が甲子園に出るなんて。」と皆で話しました。当協会の例会で（20年ほど前だと思います。）母校のある湯浅町に行つたことがあります。当時の藪添校長（英語の先生）、中井先生（1年生の時の担任・美術）が来てくれました。ニュージーランド北島にあるケリケリという町と湯浅町は姉妹都市の関係があり、学校間でも交流があるようです。当協会の酒井みかさん夫妻が住んでいるファンガレイの近くと思います。

（貴志康弘）

■ 新会員紹介（お二人）

● 内村聰子さん

会報7月号に70年万博 NZ 館のコンパニオンをされていたスイス・ジュネーブ在住の内村聰子（旧姓）さんをご紹介しましたが、大阪・関西万博終了（10月13日）直前に再来日されました。万博再訪と故郷（佐賀）の同窓会出席・千里万博記念公園見学等が目的で時間も限られていたので残念ですが、今回も会員との懇親の機会を設けられませんでした。スイス在住の50年近い間に何度もNZ を訪問されたそうです。NZへの愛と当会に関心を持たれ11月から入会いただきました。スイスから当会を応援していただけるそうです。

● 門野光平（かどのこうへい）さん

会報7月号にご寄稿いただきました。ワーキング・ホリディでファンガレイに滞在し、英語の勉強とファームジョブをされています。神戸ご出身、映画鑑賞とサウナが趣味とのことです。

■ 3ヶ国比較（2024年・数字は概算）

	面積	人口	平均年収
NZ	27万534km ²	530万人	930万円
スイス	4.1万km ²	905万人	1,545万円
日本	38万km ²	1億3,000万人	460万円

■ 初夏のニュージーランドから

分領会員からメールが届きました。11月1日から奥様と奥様の友人の3人で北島をレンタカーで旅行中。ファンガレイではみか客員会員宅にお世話になったそうです。例会（民博・クリスマス）には参加できないそうですが、次号の会報には旅行記をご寄稿いただけますのでご期待ください。

■ 読書の秋です。

当会の蔵書・DVDをご紹介します。

● ニュージーランドに魅せられて

（川瀬勇当会初代会長著）

● 「ニュージーランド」 私を虜にした楽園の国

（松沼清司当会副会長著）

● 日本人の知らない武士道

（A.ベネット関西大教授・当会客員会員著）

● ニュージーランドを知るための63章

（青柳まちこ編集）

● クジラの島の少女

（マオリ社会を舞台にしたDVD）

● ニュージーランドの若大将

（加山雄三主演 DVD）

■ 原稿募集

NZに関する情報・旅行記などのご寄稿をお願いします。次号締め切りは2月末です。

■ 新会員募集

NZに関心ある友人・知人をご紹介ください。

■ 協会運営・例会等へのご提案を

お待ちしています。

